



# NPO法人カタリバ ICT活用に関する紹介資料

青少年のICT活用のためのリテラシー向上に関するWG（第1回）  
2022年12月14日（水）15時～17時

認定特定非営利活動法人カタリバ 富永みずき

未来は、つくれる。

**KATARIBA**

*Shape the Future*

# NPO法人カタリバについて

# 認定NPO法人カタリバとは

カタリバは、日本全国で活動する、創業21年目の教育NPO

## ビジョン

どんな環境に生まれ育っても、未来をつくりだす力を育める社会

## ミッション

意欲と創造性をすべての10代へ

## アクション

子どもたちに「サードプレイス（自分で選択した居場所）」と  
「サードリレーションシップ（ナナメの関係）」を届け、学びを支える力を育む

### First

家／親と子ども



### Second

学校／先生と児童生徒



### Third

自分で選択した居場所／ナナメの関係



ナナメの関係：タテ（親・先生）でもヨコ（同世代の友人）でもない、新たな視点をくれる一歩先ゆく先輩

# 15超の事業部に分かれ教育事業に取り組む 認定NPO法人カタリバ

## Theme 1

### 誰ひとり取り残さずに学びにつなぐ

生まれた環境による「キッカケ格差」を無くしていく

## Theme 2

### 未来をみずから切り拓く力を育む

日本中の子どもたちに本物の「マイプロジェクト」を



1

### サードプレイス型事業

放課後や学校外の居場所として  
地域のニーズや課題に合わせた10代のための施設を運営



2

### プログラム提供型事業

学校や地域に10代の心に火を灯し  
意欲と創造性を育むプログラムを届ける



3

### ハンズオン支援型事業

高校・行政の中に入り込み、  
探究的な学びのサポートや、地域の教育環境づくりを実施

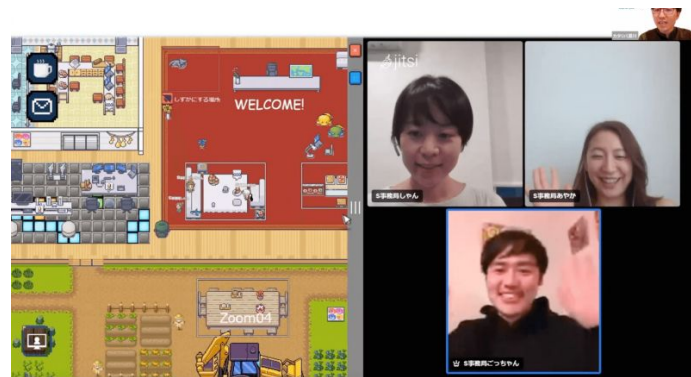
# 本日の論旨

## 青少年のICT活用を促進させるために、 保護者が協力しやすい仕組みを生み出せないか

- 青少年がICTをうまく活用するためには、  
デジタルを用いた活動を**実際に子ども自身が経験する必要がある**
- 一方で、この**経験を応援するためには、保護者自身の協力が不可欠であるが、**  
現状は保護者自身の「**不安**」によって**協力しづらい状況**ができています

# オンライン系事業部の 取り組みについて

## オンライン系プログラムの変遷



2020

### カタリバオンライン

完全オンラインでの、  
子どもの居場所づくり

### キッカケプログラム

経済的困窮世帯に対するPC&Wifi  
の貸与および学習機会の補填

### room K

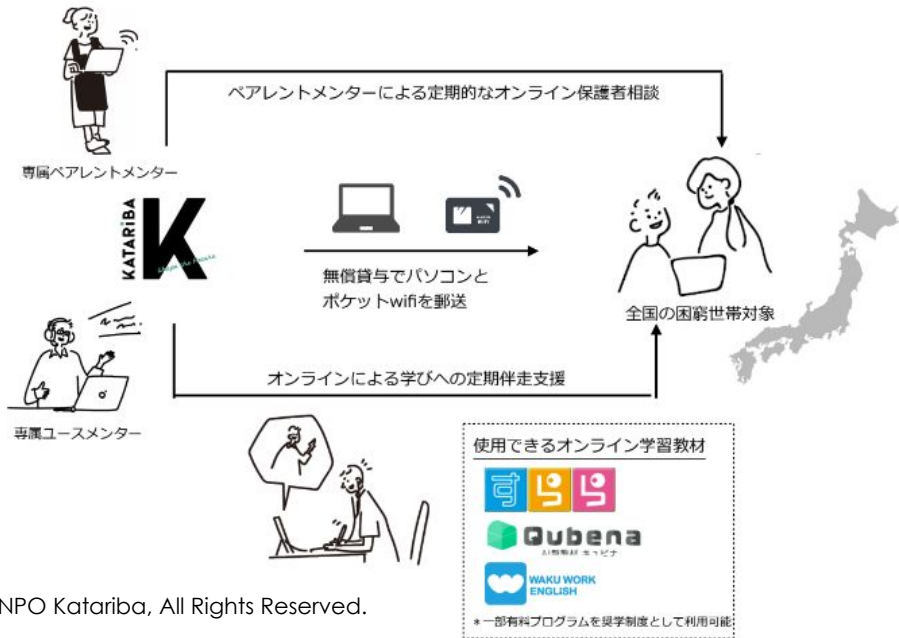
不登校のお子さんのための  
メタバース居場所

2022



# （抜粋）キッカケプログラムについて

機器を無償貸与するだけでなく、  
保護者と子どもどちらにも定期的な伴走支援を実施するプログラム



## 支援方法

- 親子それぞれに「メンター」と呼ばれる伴走者を設定
- 子どもには週に1回、保護者には月に1回面談を実施

## 提供している支援の例

- 学習機会
- 安心して相談できる関係性
- 必要に応じて地域の支援への接続  
※オンラインソーシャルワーク

## メンターについて

- ペアレントメンター  
⇒子育て経験者を中心とする40～50代
- 子どものメンター  
⇒20代～30代を中心とするメンバー

# ICT活用事例

## 【子ども】オンラインで「習い事」に取り組む@zoom

### 学びをつなぐ、ICT活用を用いた自己表現活動・学習

小学校4年生から高校3年生まで、学年や興味関心に合わせた学習機会やタイピングやcloudツールを用いて言語化・意思疎通をする機会作りとして実施しています。

#### 中学生・高校生向け講座

中3・高1におすすり！  
 受験対策  
 講座時間 80分

中学生 英語  
**atama+**  
 ハイレベル講座

Atama+ 英語講座 (ハイレベル)

中学生 高校生  
 随時申込受付中

テスト対策  
 講座時間 60分

中学生 英語  
**atama+**  
 ベーシック講座

Atama+ 英語講座 (ベーシック)

中学生 高校生  
 随時申込受付中

テスト対策  
 講座時間 60分

中学生 数学  
**atama+**  
 ベーシック講座

Atama+ 数学講座 (ベーシック)

中学生 高校生  
 随時申込受付中

中学生向け  
**デジタルイラスト**  
 経験者クラス

デジタルイラスト講座 (経験者向け)

中学生 高校生  
 随時申込受付中

中学生  
**プログラミング講座**  
 ビジュアル言語コース

プログラミング講座 ビジュアル言語コース

中学生 高校生  
 随時申込受付中

中学生  
**プログラミング講座**  
 Pythonコース

プログラミング講座 Pythonコース

中学生 高校生  
 随時申込受付中

中学生  
**WEB制作講座**  
 WordPressコース

Web制作講座 WordPressコース

中学生 高校生  
 随時申込受付中

英検対策講座

英検対策講座

小学生 中学生 高校生  
 随時申込受付中

中学生  
**オンライン英会話**  
 Wakuwork  
 週1回のマンツーマンレッスン！

オンライン英会話：Wakuwork

中学生 高校生  
 随時申込受付中

## 【子ども】メタバース空間を利用した支援（room-K）

### 子どもたちを社会とつなぐメタバース不登校支援

子どもも大人も「アバター」を用いて仮想空間上を自由に移動し、他の子どもたちとやりとりしながら学習が可能。この空間を通して、自分自身の学級担任と面談ができたケースも存在しています。

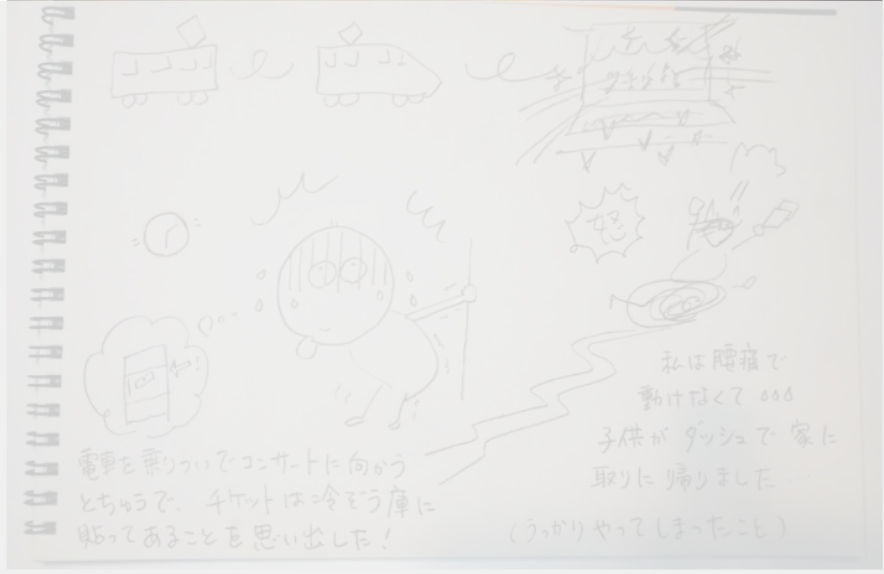


## 【保護者】グラフィックレコーディング練習会

### 支援につながるために不可欠な、大人の「伝える力」を醸成

オンラインでグラフィックレコーディングを学びながら、  
保護者自身の「伝える力（＝言語化、表現力）」を身につけるワークショップを実施

※「伝える力」の有無が、親子ともに適切な支援や情報につながる為に不可欠なスキルととらえています



# 情報モラル教育および デジタルシティズンシップ教育

## 保護者向けデジタルシティズンシップ研修

### 利用制限をするだけではないPCとの向き合い方を保護者にレクチャー

「ネット依存」「悪い出会い」「金銭トラブル」など、保護者の感じる不安に寄り添いつつ、デジタル活用のよい側面に光を当てて使い方を考える勉強会を年に1回開催（動画視聴可能）

### 抑えておきたい言葉の違い

#### 情報モラル

- 端末で使えるサイトを制限する
- SNSは一律使ってはいけないと指導する

危ない！使うのをやめよう！

#### デジタルシティズンシップ

- どうしたらチャットで相手と気持ちよくコミュニケーションが取れるだろう？
- テクノロジーが使えるとどんなに便利かな？

どうやったら自分の身を守りながら、上手く使える？



制限をかけることって、  
子どもを守ることになる？

# ICTを活用した現場を運営するうえでの 現実と課題





## ICT活用を通じて作りたい機会

1, デジタルデバイスに触れる機会を増やす

2, デジタルの可能性やリスクを体感しながら学ぶ

3, デジタル上の創作・発信等に挑戦する

※プログラムで出会う友人や、デジタル活用のなかで関わる人々との上手なつながりやマナーの意識

情報モラル的教育

デジタル・  
シティズンシップ的教育

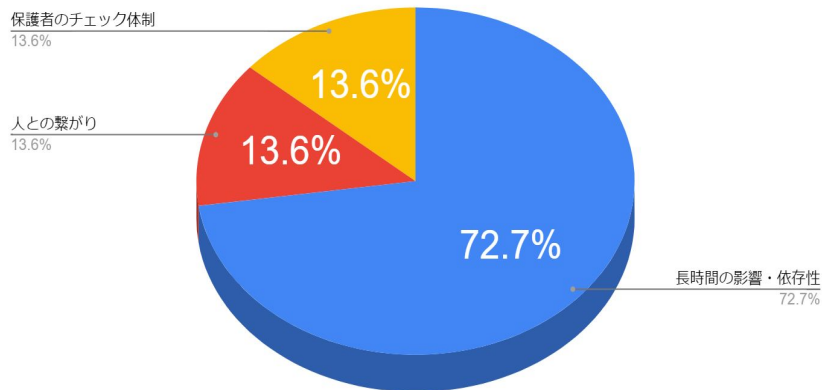
⇒ 3つ目について、  
保護者の心理的ハードルが高く、  
実践には保護者との対話・理解が不可欠

## 不安のあまり、時間制限フィルターをかける親たち

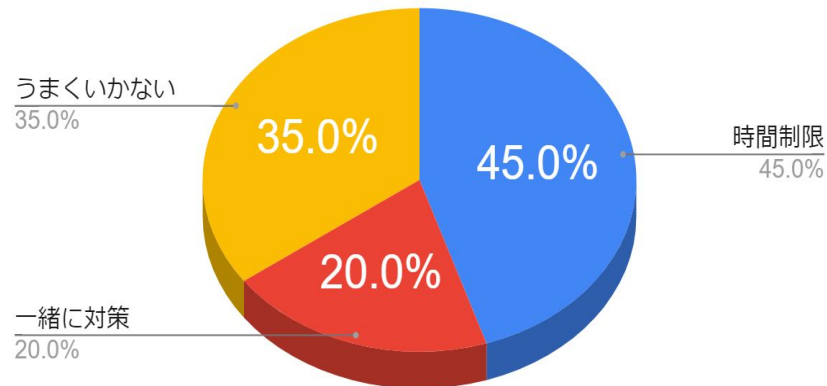
### 「とにかく不安が大きく、時間制限をかけたい」

見えない不安により、保護者としてもICT活用を促したいと思いつつも、家庭内でのルールが制限をかけることのみとなったり、「うまくいかない」という諦め（感情的なぶつかり）につながっていることも。

PC・ゲームとの付き合い方で 悩んでいることや気になっていること



PC・ゲームとの付き合い方 工夫していること



※2022年9月 キッカケプログラム利用者家庭のうち、勉強会に参加した保護者の声

## 【参考事例】思春期×親子関係の課題

### 事例① 思春期の子とコミュニケーションがとれず、 実態がわからないまま心配を理由に強制退会を促した父親

地方在住のシングルファザー家庭。  
パソコンなどのICT利用が不可欠な時代だからこそ機会を与えるためにプログラムに参加。

子どもはプログラミングに出会い熱中し熱心に参加していた一方、思春期もあり子どもが自分の取り組みについて話さないことから保護者が激怒。

遊んでいるのではという疑心の元、プログラムを退会したい（＝貸与パソコンの返却）と申し出る。  
子どもの利用実態について詳細をヒヤリングすると**実情はわからず想像が先行していたことが判明**。  
事実がわからないまま、子どもとの意見の食い違いが続いている状況だった。



## 【参考事例】発達特性×相談先の不足

### 事例②

「相談しても、状況を理解し助言してくれる相談相手がいない」

小学校中学年の子の家庭。  
子どもは自閉症スペクトラムの診断あり。

以前からハマり出すと止まらない性格で、PCの貸与を受けてから長時間利用が増えたため、  
保護者が親子間でルール設定などを促すもうまくいかず、ネット依存を疑って病院や地域窓口にご相談。

しかし、病院では「依存症ではない」の一点張りとなり、  
窓口では**状況を理解できる人材がおらず寄り添いのみ。**  
八方ふさがりの中でやむなくネット制限をかけるも、親子関係が悪化。



## 🗨️ 取り組みの中で捉えている実態

### 実態

- 保護者自身の不安の声が多く、利用制限に頼る傾向がある
- 親子の向き合い方の違いが生じやすい

### 課題

- 保護者自身のネットリテラシーの不足
- **子どもと保護者の対話する時間不足や関係性に課題**  
⇒建設的なルール決めができず喧嘩に・・・
- **いざというときの相談先の不足**  
⇒不安が先行して縛る手法を選択せざるを得ない

⇒親子で向き合うだけの時間と余裕、  
万が一の時への不安に対する心理的圧迫が  
子どもの可能性をつぶす機会にもなりえる状況

## 青少年のICT活用を促進させるために、 保護者が協力しやすい仕組みを生み出せないか

- 青少年がICTをうまく活用するためには、  
デジタルを用いた活動を**実際に子ども自身が経験する必要がある**
- 一方で、この**経験を応援するためには、保護者自身の協力が不可欠であるが、**  
現状は保護者自身の「**不安**」によって**協力しづらい状況**ができています

【ご提案】 青少年のICT活用を促進させるために、  
保護者が協力しやすい仕組みを生み出せないか

## 提案

### デジタル利用に関する対応に特化した専門家（専門団体）の増設

1. デジタルシティズンシップの観点を持った、  
家庭支援カウンセラー（仮）認定資格制度創設
2. 1を組織的に対応できる団体の認定
3. 3、1の、学校・図書館・児童福祉機関・病院・オンラインなど、配置検討

# 卷末



# カタリバ代表紹介

名前 | 今村 久美 Kumi Imamura

出身 | 岐阜県高山市

肩書 | 認定NPO法人カタリバ 代表理事  
公益社団法人ハタチ基金 代表理事  
一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 理事



## ● NPOカタリバ

2001年にNPOカタリバを設立し、高校生のためのキャリア学習プログラム「カタリ場」を開始。  
2011年の東日本大震災以降は子どもたちに学びの場と居場所を提供するなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組む。

## ● その他の役目

文部科学省 中央教育審議会委員  
経済産業省 産業構造審議会臨時委員

# 活動のひろがり

2020年度は14の事業で合計**120,122人**の子ども・若者に活動を届けました。

東京を中心に「ナナメ」事業  
**カタリ場**  
 全国 〇 貢献と創造性  
**815人**のボランティアキャストが**20校**、**4,575人**の生徒へ「ナナメの関係による本音の対話」を届けました。



## カタリバオンライン for Teens

全国 〇 貢献と創造性  
 オンラインによる対話と創造的学びの機会を、全国の中高生**980人**に届けました。



全国 〇 まなびにつなぐ

生活困難世帯の全国**321人**の子どもたちとその保護者**262人**に、オンラインによる伴走支援と学びの機会を届けました。



## マイプロジェクト

全国 〇 貢献と創造性  
 全国の高校生**102,755人**がマイプロジェクトに挑戦しました。



東京都立 〇 まなびにつなぐ

困難を抱える子どもたち**2,106人**に、学習や食事、体験活動を届け、自立する力を育みました。

〇 貢献と創造性 日本の子どものための貢献と創造性を育むプログラム  
 〇 まなびにつなぐ 貧困や災害、新型コロナなどがある、誰ひとり取り残さずまなびにつなぐプログラム

## 雲南市教育魅力化プロジェクト

鳥取県雲南市 〇 貢献と創造性

雲南の未来をひらく高校生**950人**に「地域ならではの教育プログラム」を届けました。



鳥取県雲南市 〇 まなびにつなぐ

不登校の小中学生のべ**634人**に、安心できる場と学びの機会、社会とのつながりを受け、保護者のべ**161人**に寄り添いました。



## 被災地の「放課後学校」コロバ・スクール

大崎南学園(宮城県大崎市)・大崎南学園(岩手県大崎市)・東葉あいらず舎(福島県双葉郡) 〇 まなびにつなぐ

**1,161人**の東北の小中学生に「未来を思い描く力」を届けました。



東京都文京区 〇 貢献と創造性

中高生の秘密基地を**4,834人**が利用しました。



## 大館高校魅力化プロジェクト

岩手県大館市 〇 貢献と創造性

大館高校の生徒**206人**に復興の「リーダーを育成するカリキュラム」を届けました。



東京都 〇 まなびにつなぐ

外国ルーツの高校生たち**176人**へ「ナナメの関係による本音の対話」を届けました。



全国 〇 貢献と創造性

全国の中高校生**297人**に、「校則を主体的に見直す対話の機会」を届けました。



東京都八王子市・稲佐村、静岡県熱海市伊豆山地区 〇 まなびにつなぐ

被災した子どもたちのべ**1,091人**に、ボランティアのべ**146人**と共に「安心して過ごせる居場所と学びの場」を届けました。



全国 〇 まなびにつなぐ

不登校の小中学生**36人**を、オンラインでの学びの機会につなげました。

# 団体概要、団体理念

どんな環境に生まれ育っても未来をつくりだす力を育める社会を目指し、すべての10代が意欲と創造性を手にできる未来を実現しようと活動しています。そのため私たちは、活動の核となる3つの強みを磨き続けます。さらにすべてのスタッフが日々 credo に掲げた行動指針を実践することで、私たち自身が常に進化し、未来をつくる体現者であることを目指しています。

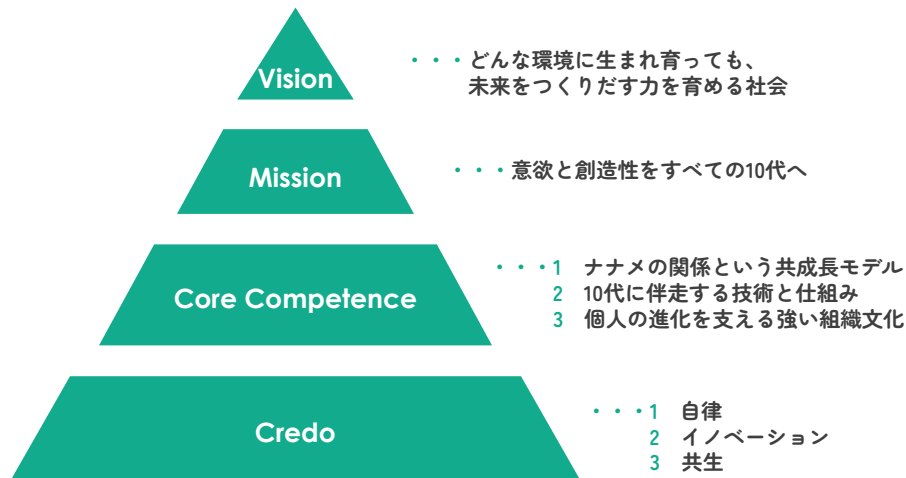


団体理念について毎年対話を重ねた全社会議の様子

## 団体概要

名称	認定特定非営利活動法人カタリバ
本部	東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺 commons
設立	2001年11月1日（2006年9月21日に法人格取得）
役員	代表理事：今村久美 常務理事・事務局長：鶴賀康久 理事：岡本拓也（公認会計士） ：酒井穰（経営者） ：中原淳（博士/人間科学） ：山内幸治（若者創業支援NPO理事） 監事：神山晃男（経営者） ：久保田克彦（公認会計士） ：中山龍太郎（弁護士）
職員数	139名（2021年4月時点）
収入	1,636,748千円（2020年度）

## 団体理念



\* 団体理念は3年間、全職員でつくりたい未来・ありたい姿・何人の組織になっても大切にしたい行動指針について対話を重ねながら作成しました。